

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370105235		
法人名	(株)アイリーフ		
事業所名	アイリーフ当新田 (ユニット共通)		
所在地	岡山市南区当新田364-5		
自己評価作成日	平成24年 3月 8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3370105235&SCD=320&PCD=33
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成24年3月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前より地域交流に力を入れています。地域の方々との協力があって、日々地域との関わりが深くなっています。今年より平日に地域運営推進委員会を行うこととし、町内会長や民生委員、地域包括担当者たちと情報交換する機会が増えてきています。また現在、災害対策についてマニュアル改善や避難訓練を実施し、利用者様を安全かつ迅速に避難誘導できるよう、また地域の方の避難場所となるように全職員が力を合わせて取り組んでいます。今までは、こちらが地域に頼ってきた部分が大きかったですが、今後はこちらが地域の方々から頼られる、そして愛される事業所となるよう、取り組んでいこうと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム「アイリーフ当新田」が誕生してあと一年で十周年を迎えるとの事だが、その当初より「この地域の中に溶け込んだホーム」を目指してきた。日頃、散歩道に花を植える・子供達の安全パトロールをかって出る・地域の要望でデイサービスも受け入れる等、可能と思われる事は積極的にチャレンジしてきた。また昨年の台風を機に、さらにお互い助け合いの空気が深まり、地域密着型の施設の理想像に近付いてきた。ホームに一步足を踏み入れると、利用者と職員の大笑いの声が一室に響き渡っている。「皆仲良く和やかに、笑顔で互いを認めあおう。暖かい家庭の雰囲気そのままに」と理念を掲げている。会社の本部が「親しみが溢れ過ぎていないか？」と心配する程だ。年齢も、気分も若くて活気のあるスタッフの「愛」が山ほど感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に掲示しており、社員研修も理念に基づいた内容である。事業所全体でその理念を共有し、実践するように心掛けている。	(株)アイリーフとしての、またこのグループとしての理念を念頭に置いて、従来活用し続けている「チャレンジシート」をもとに年2回目標達成を振り返っている。また個別に2ヶ月毎に具体的な目標を定めて理念実践につながるよう努力している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事に参加したり、小学生や幼稚園児との交流がある。近所の方とも気軽に声を掛けあい、交流を深めている。	地域との交流の幅や深さは年々増してきているが、数年前から継続している近所の郵便局やスーパーでの利用者の作品展示や地域のお母さん方を始めとするボランティアの方々の協力の成果が輝いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	掲示板にて季節の行事の案内をし、地域の方に参加してもらい、交流を通じて、認知症の人の理解を得る努力をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進委員会を行っている。ご家族や地域の方々に参加してもらい、現状報告や意見交換をし、サービス向上に活かしている。	毎回数名の家族・民生委員・交流しているグループホームの職員等が出席して有意義な会を運営している。昨年台風水害を受けて防災訓練を中心とした取り組みを活発に行い、ホームと地域の連携も強まったようだ。	家族・地域・ホームが三位一体となる為の場にしたと前年度の目標達成計画の一つとして取り組んできて、内容が充実してきている。さらに近くに住人や利用者本人の参加発言のチャンスも増やして内容を膨らませていきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者に相談や報告をし、協力を得ている。	運営推進会議に地域包括の担当者が出席してくれる事もあるし、ホーム側からも地域へ貢献できる事がないか、アドバイスをいただくようにしている。市の担当者に何かあれば相談し、指導や助言をってもらうようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束にあたる行為になっていないか、職員間で話し合っている。やむを得ず玄関に施錠することもあるが、利用者に合わせて、散歩に行くなどして、長期化しないよう心掛けている。	以前安全な暮らしを第一とし、マニュアルに従った止むを得ない身体拘束を一時的に経験した事もあるが、現在は禁止の対象となる行為は無い。但し、内・外の研修に参加して職員はよく勉強し、心身共に拘束しないケアを守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法についての勉強会を行い、意識を高めている。身体的な虐待だけでなく、声の掛け方にも注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、理解を深めるように努めている。必要と思われる利用者には、より良い支援になるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、ご家族に事業所のケアに関する考え方や取り組み、退去を含む対応可能な範囲や利用料金、リスク、重度化、看取りについて細かく説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には毎月お便りを送っており、面会時や家族会の際に相談をもらえる雰囲気づくりに努めている。また、ご家族に無記名のアンケートを実施し、満足度を高めるように努めている。	家族に対しては日頃のコミュニケーションや「お便り通信」等によく情報提供しているし、運営推進会議や家族会でも家族から意見を聞くチャンスを作っている。利用者からは「言いたいことは遠慮せず言ってます」の声も聞かれた。	利用者・家族からの意見を出してもらえる状況は十分用意されているので、例えば「家族会」企画にもう一工夫加えたり、目標達成計画でも課題としていた「ホームのリスク面に対する家族からの意見の汲み上げ」に留意して欲しい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃より職員とコミュニケーションを図りながら、要望や意見が聞くよう努めている。必要に応じては個別に話を聞く場を設けている。	会社は独自の「チャレンジシート」を作り、職員が目的意識をしっかりと持って業務にあたり、一定期間で評価し合う仕組みを作っているが、この面接の時に職員は上司と事業所の運営に関して話し合ったり意見を述べる事ができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、チャレンジ目標を掲げ、達成できるよう日々努力している。また各自2か月ごとに個人目標を掲げ、目標達成に近い職員にMVP賞を与え、モチベーションアップを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力に合わせ、外部研修に参加できるように勤務体制の配慮を行っている。内部の勉強会もテーマを決め、自由参加として実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1回、関連の事業所や他の事業所との勉強会を行っており、その交流を通じて、情報交換やサービスの質の向上を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前よりご本人やご家族からの情報収集を行い、本人様の状態把握に努めている。本人様が話しやすい場を作り、信頼関係が築けるよう、要望等をしっかり傾聴するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、ご家族の想いや要望等はしっかり傾聴するように努めている。入居後も面会時に気軽に話せるような雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族からの情報や想いをしっかりと聞き、何が必要なのかを見極めている。また新しい環境に馴染んでもらえるように環境づくりに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来ること、出来ないことの見極めをしっかりと行い、出来ることの役割を持ち、お互いに協働しながら過ごせるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや面会時には必ず報告、相談し、情報を共有することで、一緒に支えていくよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に同行したり、お便りを出すことで馴染みの関係が途切れないように支援している。	百歳を越えた方が逝かれる少し前に看護師も同行して遠方の生まれ故郷に行けた話や、遠くの施設で暮している身内との面会をお互いの施設で支援し続けている話等々、数多くのほのぼのとする「馴染みの関係」を大切にしている事実を管理者から聞いた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を見守りながら、孤立することなく、利用者同士が支え合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も、行事に参加してくださったり、季節の野菜などを持ってきてくださる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話の中で、ご本人の何気ない言動等を気に留め、その人らしい生活ができるように努めている。また、表情や行動で想いを推測している。ご家族の意向も尊重している。	普段から会話が多いホームと思うが、職員はよく耳を傾けている。特に誕生日には当人の希望を可能な限り叶えるようにしており、例えば「昔は天満屋で和菓子を買って皆に配っていたもんだ」の話を聞き、思い通り実現して満足してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話の中からの情報やご家族からの情報を基に、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の出来ることの発見に努め、継続的に行えるよう支援している。一日の過ごし方や健康状態等を申し送りしで伝え、介護記録にて共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人の言動からご本人の望んでいることを把握し、ご家族の面会時には想いや意向をしっかり聞き、介護計画を作成している。	「ケアプランに本人の思いを」という目標達成計画にチャレンジ中である。本人の思いを日頃の会話から拾い上げる方法や、記録して職員が共有するシステム等、職員間で良く話し合い現在評価検討に努めている。	ケアプラン・モニタリングの個別支援の為の環境は整えられつつあるが、本人の思いをより強く組み入れる為の方法として、例えば本人・家族からの聞き取りに工夫を加えたり、利用者によっては本人参加型プランを入れてみるのも良い。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りやカンファレンスにて職員間の情報共有に努めている。また個々の介護サービス計画実施評価を記録に残し、必要に応じて介護サービス計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に対して、柔軟に対応するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加することで地域交流を図っている。利用者の作品を地域のスーパーや公民館に展示したり、作品をお土産として配っており、自信につながっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の説明を行い、納得を得ている。ご家族の希望があれば、他病院の受診も対応している。	内科・外科共、かかりつけ医が月2回往診してくれているので安心できる。歯科は希望すれば週1の口腔ケアが受けられるし歯科医の往診も可能。他の診療科の受診も家族と相談しながら適切な対応をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は常に利用者の異常の早期発見に努め、異常があれば24時間体制で看護師と連絡、相談でき、速やかに受診、往診できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院との情報交換を常に行い、早期退院ができるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や看取りとなった場合に事業所が出来ることの説明を行い、状態に合わせて常にご家族に報告、相談し、情報を共有するように努めている。	ホーム開設より10人近い人をここで看取ったと聞いた。何年か前の改善コンクール(関連グループ間で続けている研究発表)ですばらしい取り組みをした事が基盤となって、その後もホームとして良い経験を重ねている。一人の人の最期のステージを見事に築くチーム力がそれを支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修に参加したり、事業所内でも勉強会を行い、緊急時に対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今までは火災時だけだったが、現在は地震や水害に対するマニュアル作成したり、避難訓練回数の増加などにより、災害時に職員が利用者を避難誘導できるように努めている。地域の方にも参加してもらっている。	今年度の第8回改善コンクールでは「チーム備えあり(災害時でも安心できる施設づくり)」をテーマに掲げ、地域の人達にも助けられながら避難訓練を繰り返したり、オリジナルのマニュアル作りをした成果を発表し、優秀な成績をおさめた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守ったケアができるように職員が共通の意識を持ち、一人ひとりに合わせた対応ができるよう心掛けている。	発語が失われたり意志が十分伝えられなくなった利用者に対しても、あらゆる可能性を考え積極的な働きかけもするが、本人の意志もしっかり確認してその人を尊重したケアを願っている。また、職員の声掛けに対して、利用者や家族がどのように感じているかも配慮している。	会社の立場からも、「接遇」の向上に努めていて、職員の言葉使い等に対して反省を促している。家族会等でも「そんな事にとらわれずしっかりケアを」という意見が見られたが、今後も利用者側に問う姿勢は大切にしていきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にご本人に確認し、選択肢がある声掛けや希望や想いを引き出せるような関わりを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の要望等を聞き、できるだけその方にペースを合わせ、自由に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みに応じた身だしなみや服を着てもらうように支援している。また、お化粧のボランティアの方に来ていただき、お化粧をしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて、食事の準備や片づけをしてもらっている。またご自分の誕生日や毎月のお楽しみ食事会には、利用者に献立を決めてもらっている。	普段は食材の搬入は業者に依頼し、職員が利用者の個々の状態にあわせて調理しているが、特別な日には利用者の希望を聞いたり、職員の手作りサプライズもあって、皆楽しみにしている。今日の昼食は男性職員のお手並み拝見で、「まあまあ、じゃな」〇〇さんの辛口評に周囲が湧いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量のチェックをし、状況に応じてその時に合った食事の提供に努めている。水分もこまめに声を掛けたり、好みの飲み物を飲んでもらい、水分不足にならないように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の能力に応じて援助するよう努めている。必要に応じて歯科往診にて指導、助言を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定期的にトイレ誘導や声掛けを行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	このホームに入居して介護が大幅に軽くなった話を何例か聞いたが、排泄の状況もここの自立に向けた支援で改善している。トイレでの自力排泄を、特に昼間は力を入れて援助している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や食事管理、適度な運動を取り入れ、便秘予防に努めている。必要に応じて主治医、看護師の指示のもと、内服薬を使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めているが、気持ちよく入浴できるようにその都度確認し、無理強いないで、臨機応変に対応している。	お風呂の前に一応入浴表が見えるが、実際はその人、その時の状況に合わせて柔軟に対応している。拘縮が著しく湯舟に浸かる事が出来ない人は現在シャワー浴としているが、なんとかして湯にどっぷり浸かってもらえる方策はないか、検討中である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを把握し、ご本人のペースで心地よく休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の病気を理解し、薬の目的や副作用等、看護師より説明があったり、申し送りノートにて情報を共有するよう努めている。配薬時、声出し確認を徹底し、確実な服薬介助が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や外出、作品作り等、得意なことや役割を把握し、個々に合わせた気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご本人の希望に応じて、買い物や散歩に出かけられるよう支援している。	行事としての外出の他、近所周りの散歩・近所の子供達の安全パトロール・買物を兼ねたお出掛け・「個別対応で、喫茶店でお茶を」・「近くの校庭で近所の人とグランドゴルフを」等、日常的な外出支援をよくしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の要望や安心感に繋げるため、ご家族の協力、了解を得て、少額のお金を管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望に応じて、電話をかけたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎週季節の花が飾られたり、利用者が中心となって作った季節に合った作品を飾り、居心地の良い空間作りに努めている。	○○さん手作りの花や手芸品・ホーム内で開かれている書道教室の作品・皆で仕上げるちぎり絵等の大作、その他利用者の日頃の活動が伺われる作品や写真が、この広い共用空間一杯に広がっている。リビングが広いので、「デイ」の人達も今はすっかり馴染んでいて区別もつかない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが好きな場所で過ごせるような空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人の使い慣れた家具や馴染みの物を置き、居心地よい過ごせるよう工夫している。	職員が一人ひとりの利用者の好きな物(例えば動物が大好きな人には愛らしい犬の写真)を飾ったり、手作り作品をレイアウトする等、楽しい雰囲気のお部屋にしている。俳句作品も大切に飾られていて微笑ましい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者にとってわかりやすい表示や使いやすい工夫をし、混乱が軽減するよう努めている。		